


TEAM
黒豚

舞田・里見



6次産業化×ふるさと納税
～加工体験で付加価値～



概要

- ・ 鹿児島県の付加価値が低い
- ・ 曾於市における現状
- ・ 現状から見た課題
- ・ 六次産業化の先行事例
- ・ 政策の提案
- ・ 今後の展望

テーマ：鹿児島県の付加価値の向上

・ある講義のなかで鹿児島県は農業産出額は**上位**に位置しているにもかかわらず、収益率が全国で**最下位**であり生産者の所得の低下につながっていることが指摘されていた。



・生産者の所得向上を図るためには**付加価値を高める**必要がある！

関連して

鹿児島県の農業における稼ぐ力の向上

生産・加工体制の強化、付加価値の向上	
【本県の特性を生かした農畜産業の生産体制づくり】	
<食料安全保障の強化>	
・ 生産安定に必要な施設整備や農業機械等の導入、温暖な地域特性を生かした野菜・果樹・花き等の振興 (産地パワーアップ事業 86,658千円) (かごしまの希少フルーツポテンシャル向上支援事業 8,000千円) (さとうきび産地活性化事業 30,825千円) (かごしまの農業未来創造支援事業 322,479千円)	
・ 加工・業務用野菜等の安定生産等に向けた取組への支援 (加工・業務用園芸産地確立事業 6,263千円)	
・ 畜舎等の整備による規模拡大等を支援 (畜産クラスター事業 3,845,207千円)	
・ 飼料用米・米粉用米の生産など、水田フル活用等を推進 (生産性の高い水田農業確立推進事業 10,257千円)	
・ 自給飼料の増産に向けた取組を支援 (地域資源フル活用飼料増産対策事業 51,087千円)	
・ 大規模畑地かんがい施設などの生産基盤整備等 (畑地帯総合農地整備事業 7,652,130千円)	
・ 生産資材等の価格高騰への影響緩和 (茶・施設園芸燃油高騰対策緊急支援事業 119,000千円) (配合飼料価格高騰対策緊急支援事業 538,200千円)	
<みどりの食料システム戦略の推進>	
・ 「みどりの食料システム戦略」の実現に向けて、有機農業の産地づくりや環境にやさしい栽培技術、省力化等の取組を支援 (みどりの食料システム戦略推進総合対策事業 347,130千円) (環境と調和した農業推進事業 112,200千円)	
・ 地域計画の実現に向けて、農地中間管理機構を活用した農地の集積・集約化を推進 (農地集積推進事業 633,078千円)、(地域計画推進支援事業 79,926千円)	
【6次産業化の推進】	
・ 6次産業化事業者等への継続的支援による県産農林水産物の付加価値向上 (かごしまの6次産業化推進事業 32,126千円)	
・ 加工・流通技術の研究・開発や加工事業者への技術支援等による県産農畜産物の付加価値向上 (大隅加工技術研究センター関係事業 73,793千円)	

・ 本県の特性を生かした農畜産業の生産体制づくり

・ 6次産業化の推進において事業者等への継続的支援による県産農林水産物の付加価値向上

農業の「稼ぐ力」を引き出す令和6年度の主要施策

[87300_20240328121916-1.pdf](#)
<http://pref.kagoshima.jp>

対象地域

曾於市



- ▶ ・ 鹿児島県の東部、大隅半島の北部に位置している
- ▶ ・ 人口：約3万2千人
- ▶ ・ 冷涼温暖な気候と広大な畑地を活かした特産品の数々
- ▶ 例：黒毛和牛・豚肉・スイカ等

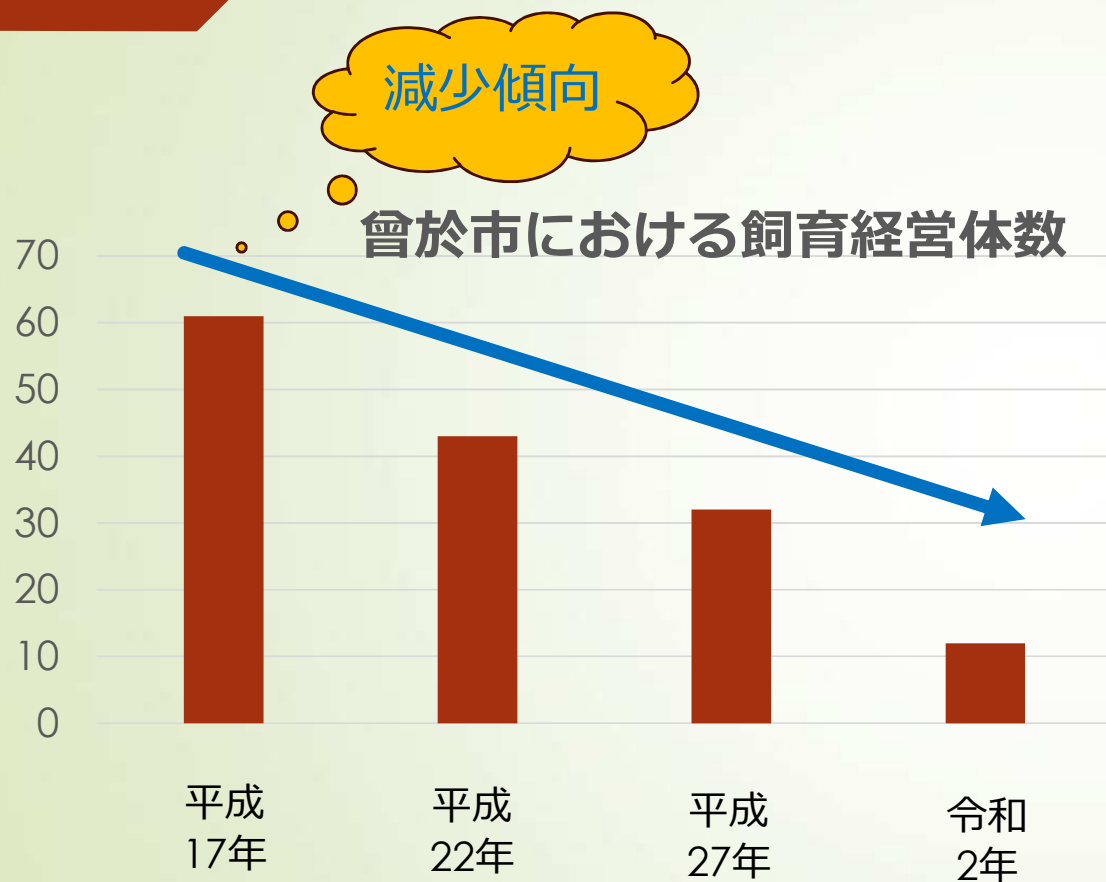
ゆるキャラ

そお星人



現状①

平成17年から令和2年にかけて約40体数減少!



曾於市統計書より

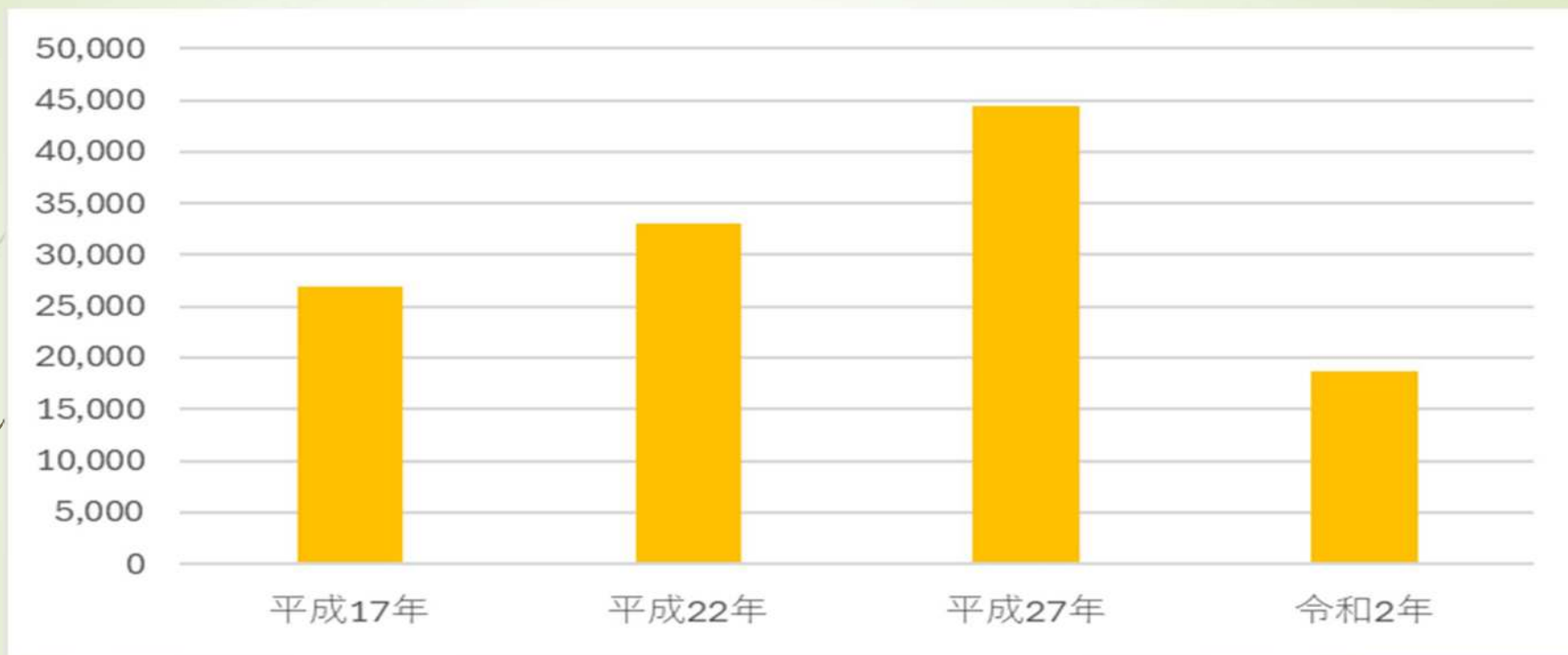
・曾於市は鹿児島県内でも黒豚の生産額が**トップクラス**である。

しかし

↓
・豚における飼育経営体数は**減少傾向**にある。

現状②

豚の飼養頭数



- ・飼育経営体数が減少しているのと同時に飼養頭数も近年減少している。

現状③

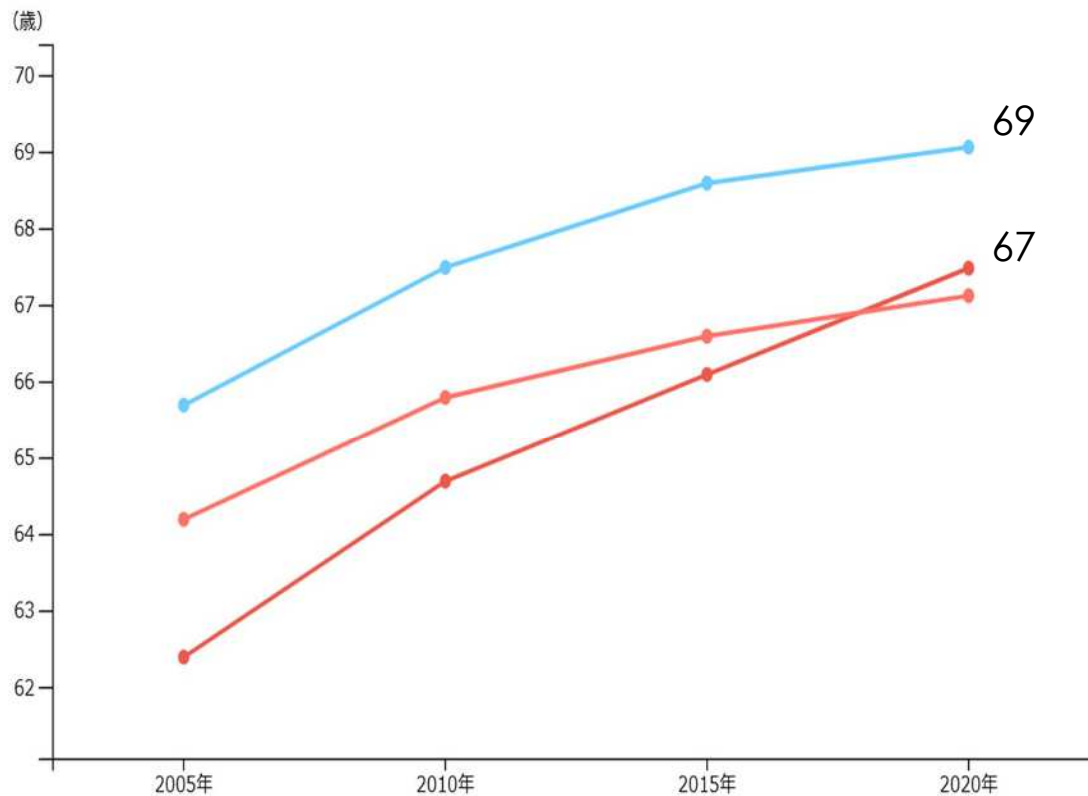
グラフ3

農業経営者の平均年齢

指定地域：鹿児島県曾於市

性別：総数

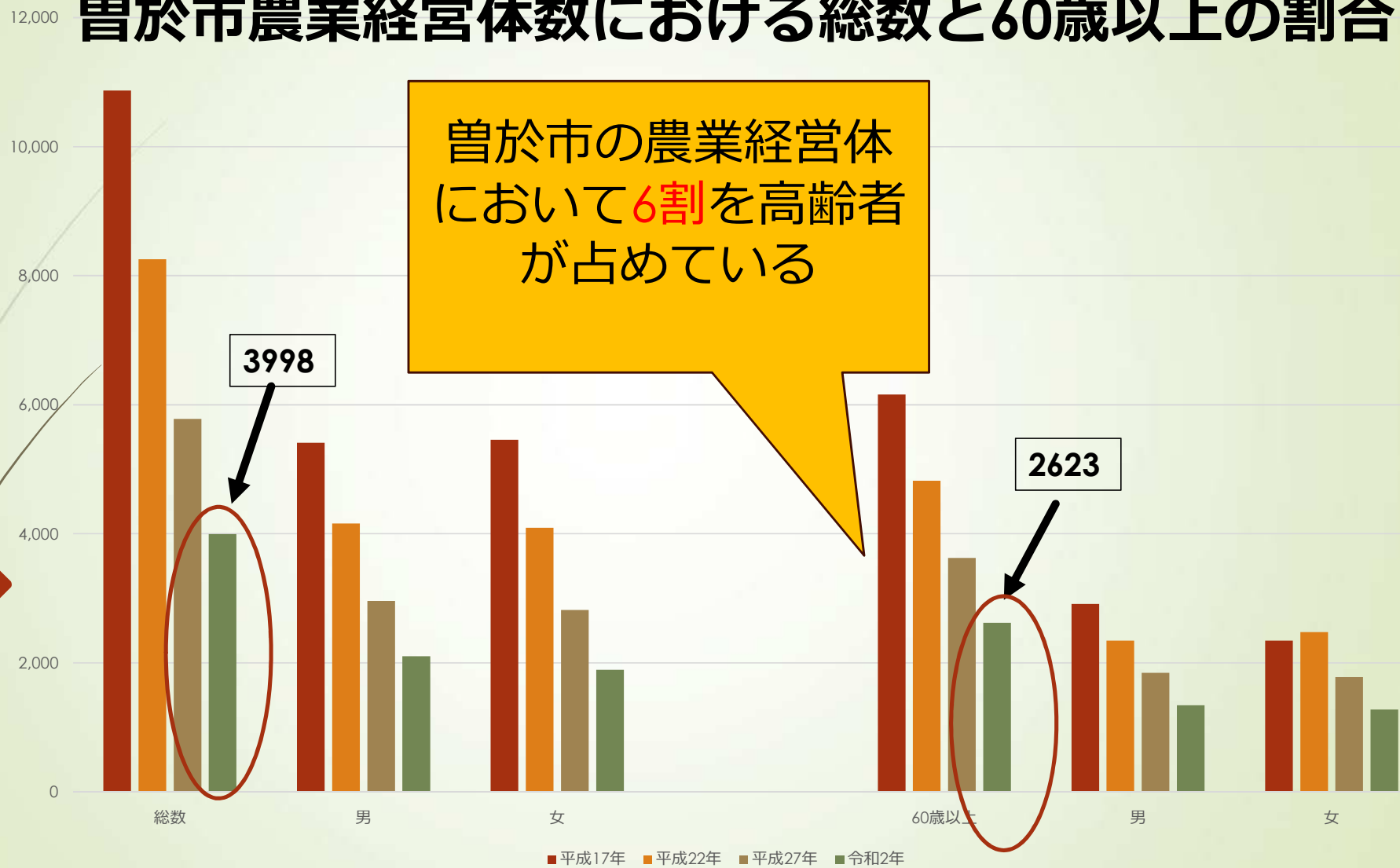
● 指定地域 ● 鹿児島県平均 ● 全国平均



・ 曾於市における農業経営者の平均年齢は鹿児島県全体と比較したときに高齡化している傾向がある。

グラフ4

曾於市農業経営体数における総数と60歳以上の割合

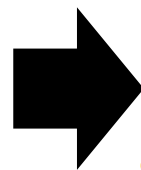


曾於市の農業経営体
において6割を高年齢者
が占めている

まとめると...

飼育経営体
数が**減少**

比例して



飼養頭数
も**減少**

・原因の一つに
曾於市の担い手
の**高齢化**

収入
減少



付加価値
の**向上**



収入
増加

六次産業化とは？

六次産業化

一次産業 **+** 二次産業 **+** 三次産業 **=** 六次産業

農業・畜
産業など

製造業・建
築業など

サービス業
など

・ 一次産業としての農林漁業と、二次産業としての製造業、三次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組み

先行事例 1

南洲農場ラーメン

生産・加工・販売



南洲農場が経営



先行事例 2

小田畜産（南さつま市）

生産・加工・販売



小田畜産が経営
（海外進出まで！）





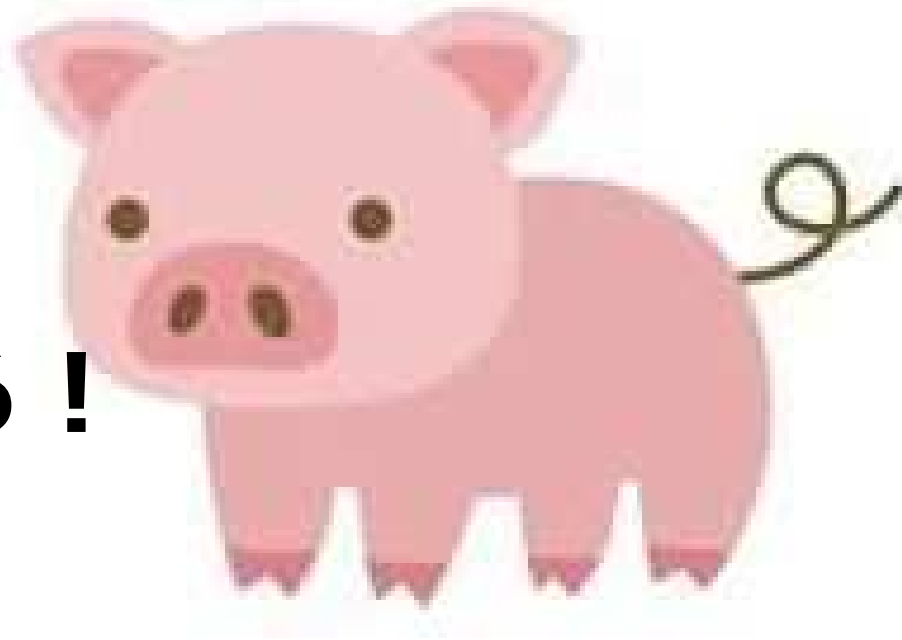
加工体験で付加価値を！

政策① ねらい

【養豚場で加工体験】

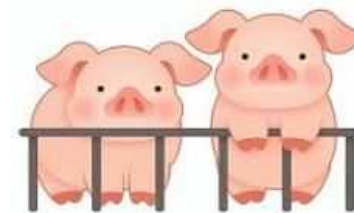
- ・ 生産を目で見て、実際に加工し、加工したものを食べる

↓
6次産業を体感できる！



体験学習の概要

①農場に行き、飼育中の黒豚見学



②工場に移動し加工体験
(お肉のパック詰めなど)



③加工したものを実際に食べる



体験学習の詳細

日程

1日

参加者

中学生~高校生

費用

無料(交通費のみ自費負担)

学習内容

飼育・加工・食育体験

体験学習のタイムスケジュール

9:00

黒豚の飼育見学

10:00

休憩・移動

10:30

加工体験

11:30

試食会

12:30



役割

畜産農家

- ・ 飼育状況の説明
- ・ 加工体験のサポート
- ・ 体験場所の提供

- ・ 加工体験への参加
- ・ 体験を通して今後の要望や感想

参加者

- ・ 補助金申請サポート
- ・ 運営のサポート
- ・ 活動における広報

行政

期待される効果（参加者）

- ▶ ・命の重みを学ぶことができる
- ▶ ・6次産業の難しさを学ぶことができる
- ▶ ・受け入れ先の商品の割引券をもらえ、安く買うことができる



期待される効果（受け入れ側）

- ▶ ・加工の一部を1日ではあるが、人件費なしで手伝ってもらえる
- ▶ ・割引券で参加者の商品購入を促進することで、自社製品を手軽に購入してもらい、口コミ等で商品を広めてもらうことが期待できる



政策② 加工食品を利用したふるさと納税

政策①の養豚体験において中高生が加工した商品の一部を曾於市ふるさと納税の返礼品の一つとする

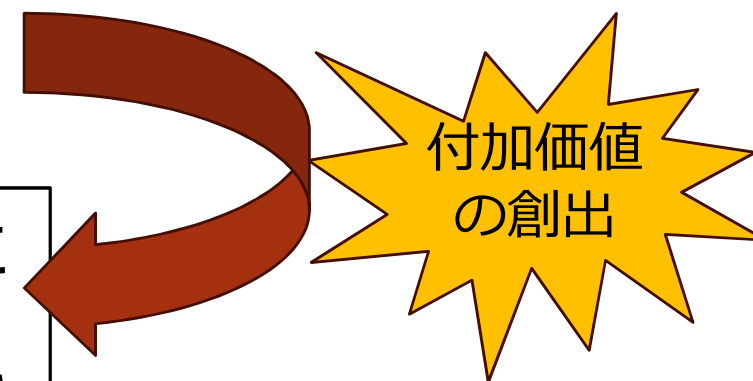
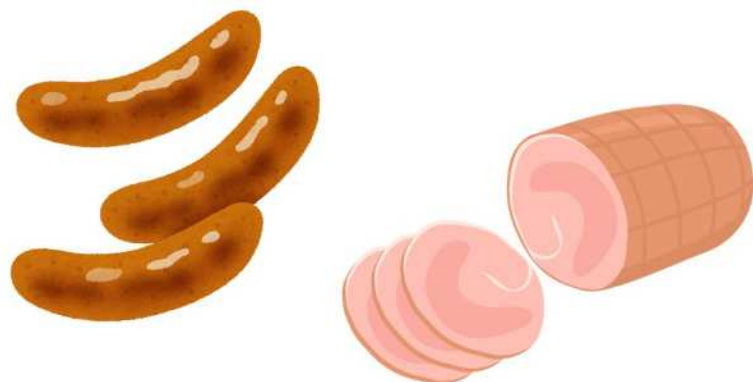
中高生が地元の食品を使って加工食品を製造することで地域の特産物についてアピールできる

地元の畜産農家の経済力向上や若者の地元産業への理解や関心が深まることが期待できる

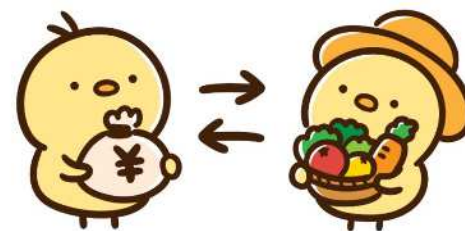
付加価値の創出

養豚体験で加工したものの一部をふるさと納税における**返礼品**として利用

受け入れ側は中高生が加工したものとして**付加価値**をつけることができ、同じ自社製品でも人件費などを削減した分**値段を安く**することができる。



ふるさと納税



ここでいう付加価値とは？

- ▶ ふるさと納税の返礼品を受け取った人は同時に他の製品に使える割引券をもらうことができ、この点において普通に商品を買うこととの差別化を図る。
- ▶ またふるさと納税の回数に応じて特定の加工品と交換ができる**引換券**を配布する



今後の展望

- ・ 中高生にとってはとても貴重な経験になるが、「**中高生が加工した商品**」という付加価値が**ふるさと納税**を検討している人たちの目にどのように映るかが心配である。

今後の展望

- ・ 加工体験の受け入れ先をどのように決めるか
- ・ ふるさと納税の金額を原価から考える

出典

曾於市統計書

https://www.city.soo.kagoshima.jp/gyousei/toukei/files/toukeisyo_r5.pdf

鹿児島県ホームページ

<http://www.pref.kagoshima.jp/ag01/sangyo-rodo/nogyo/nosanbutu/brand/kurobuta.html>